

淡路島 身近な自然・身近な野草 [II]  
～農地とその周辺の植物を見に行こう～

2015年3月  
兵庫県淡路県民局

# 農地は野草の宝庫

農地は野草の宝庫です。2014年、兵庫県立大学の学生が、ある1軒の農家の農地(19000㎡)で植物を調べたところ、341種類もの野生植物が見つかりました。この数は、淡路島でこれまでに記録された植物の約5分の1に当たります。見つかった植物のうち11種は環境省や県によって絶滅危惧種に指定されている貴重な植物でした。

農地には、田面のほか、前あぜ・あぜ・こせ・あらま・よけ(ねき)・水路・ため池といったさまざまな部位があり、部位ごとに生えている植物の種類が少しずつ異なります。このため、農地全体をみわたすとたくさんの種類の野草が見つかります。農地の部位はどれも、日々の農作業によって維持されています。つまり、農村の生物多様性は農家の方によって支えられています。



## まえがき

淡路県民局では、「あわじ花回廊計画」や「淡路花博」の理念を継承し、地域住民の指針となる“あわじ総合緑花プラン”を平成17年度に策定し、「淡路らしい緑花」、「持続可能な緑花」に取り組んでいます。

その一環として、淡路島に自生する植物に着目し、平成22年度から「淡路島ー自然のちからを活かした緑花」と題して、[Ⅰ]里地・里山の道路沿いや農地畦畔等での自然植生を活かした緑花、[Ⅱ]緑花のモデルとなる「半自然草原」・「そで群落」の探し方や観察のヒントの紹介、[Ⅲ]里地・里山での緑花づくりの実験事例を紹介したパンフレットをシリーズで作成し、配布しました。

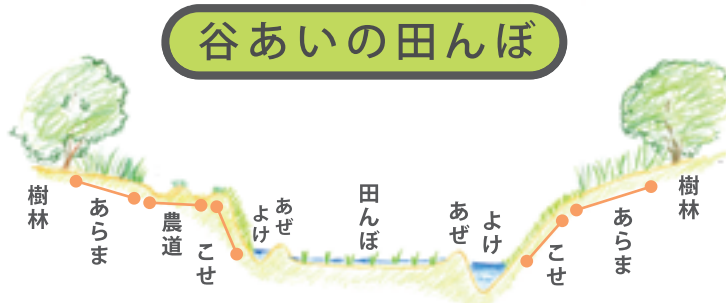
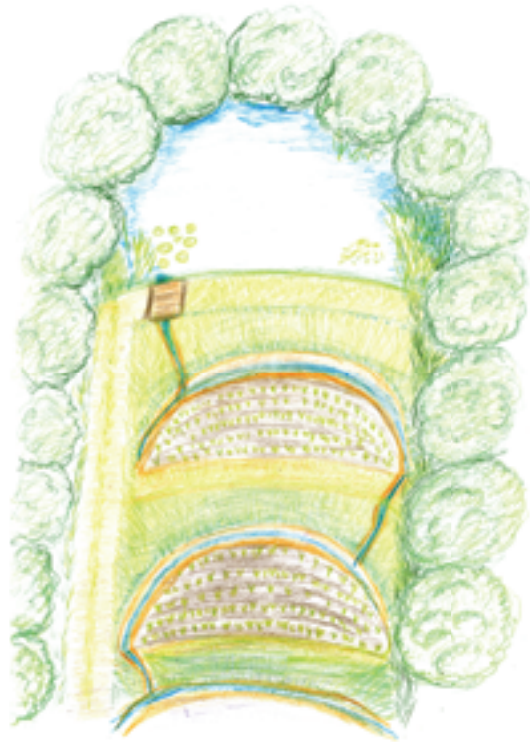
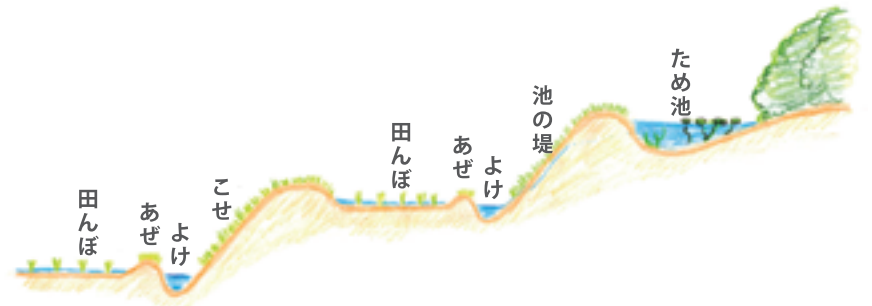
平成25年度は、「淡路島ー身近な自然・身近な野草」と題し、とくに海岸域にみられる植物とその生育立地・人と植物の関わりなどを紹介し、島内の緑花活動団体が地域の特性を活かした淡路の海辺の植物に親しみをもってもらえるようなパンフレットを作成しました。そして、今回は、とくに農地とその周辺における植生について紹介します。

より多くの方々に、淡路島本来の自然植生の魅力を再認識していただき、人と自然の豊かな関係をきずく公園島「環境立島あわじ」の実現につなげていただければ幸いです。

2015年3月

兵庫県淡路県民局長 安倍 茂

# 農地にみられるいろいろな環境



平野部の田んぼよりも山地・丘陵地の農地がおすすめです。とくにまだ圃場整備をされていない「まるい田んぼ」があつまっている地域がおもしろい。  
 観察するときは、農家の方に声をかけて、許可を得てから農地へ入ろう。

## 耕作田の雑草

しばしば耕耘がおこなわれる耕作田の田面では、おもに1年生の水田雑草がみられます。春先の田面ではタネツケバナやノミノフスマなど、ちいさな草花がお花畑のように咲き競います。田植えがおこなわれたあとは、農家が雑草を取り除くので、あまり多くの野草はみられませんが、除草剤をつかわない田んぼでは、右ページの「よけ」とおなじような水草が生えてきます。

しばしば耕耘がおこなわれる耕作田の田面では、おもに1年生の水田雑草がみられます。春先の田面ではタネツケバナやノミノフスマ



タネツケバナ



コオニタビラコ



ノミノフスマ

## あぜや前あぜの野草

あぜや前あぜは、草刈りをされたり、人に頻繁に踏まれたり、泥をぬりつけられたりします。また、田面に近いので水分は豊富です。こせとは少し違った草花がみられます。



ジシバリ



ミミナグサ



ミヅカシ

## こせ(畦畔)の野草

こせでは年に3～4回くらい草刈りがおこなわれます。そのため、チガヤなどの多年草からなる草原ができあがります。草刈りの頻度に応じてさまざまな植物がみられます。



ヒメハギ



ヒナギキョウ



チガヤ



オミナエシ



ヤクシソウ



エビヅル



アカネ



サルトリイバラ

## あらまの野草

樹林と農地の境界部の「あらま」では、年に1～2回くらい草刈りがおこなわれるようです。こせよりも背の高い多年草や、つる植物のような林縁生の植物が多くみられます。

ため池や水路，放棄された湿田（じゅるた）は，水生植物や湿生植物の宝庫です。これらの植物の中には絶滅が心配されている種類も多く含まれています。

## ため池の水草

ため池ではさまざまな水生植物や湿生植物がみられます。浅瀬ではヒメガマやミソハギのような抽水植物，やや深いところではヒシのような浮葉植物が目立ちます。水際の湿地帯ではハンゲショウのような湿生植物が生えています。



ヒメガマ



ヒシ



ミソハギ



コウホネ



ハンゲショウ

## 水路や「よけ」の水草

「よけ」とは，水田の排水のために，水田のふちに掘られる溝のことです。「ねき」と呼ばれることもあるようです。水路や「よけ」では泥さらえがおこなわれるためか，ため池にくらべて1年生の水草が目立ちます。



ミズオオバコ



ミズハコベ

## じゅるたの湿生植物

排水不良で年中湿っている水田を「湿田」といい，淡路島では「じゅるた」とよびます。じゅるたは機械化がむずかしいためか，最近では放棄されていることが多いようです。放棄されたじゅるたにはめずらしい湿生植物がよくみられます。



セトガヤ



ゴウソ



オモダカ



ミクリ

# あとがき

淡路島特有の環境で育まれた自生植物は、“淡路らしい”植生として、美しい里山や海岸の景観を形成しています。

今回も、兵庫県立淡路景観園芸学校(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)に執筆を依頼し、淡路島の農地とその周辺で見られる在来植物の植生の特徴などについて紹介しました。身近にありながら、見過ごしがちな自生植物の名称やどのような花が咲くのかを知ること、興味や親しみをもっていただき、淡路らしい緑花の実現に向けて活用して下さることを願っています。

## 淡路島 自然のちからを活かした緑花 バックナンバー

### I. 半自然草原をつくろう (2011年3月)

里地の沿道緑花の方法として“自然のちからを活かした緑花”を提案しました。花壇をつくるのではなく、草刈りによって成立する野草草原を活用しようという提案です。園芸植物の花壇にくらべると華やかさは控えめですが、里地だからこそ可能な、自然な緑地を目指します。



### II. 里の草原を観に行こう！ (2012年3月)

“自然のちからを活かした緑花”にとりくむには、まずは身近な自然を知ることが必要です。そこで、緑花にとりくむ前に1年間、里の草原をじっくりと観察することを提案しました。里の草原の観察のしかた、楽しみ方など、様々なヒントを紹介しました。



### III. 草原づくりをやってみた！ (2013年3月)

“自然のちからを活かした緑花”を実際におこなった例を紹介しました。兵庫県立淡路景観園芸学校では、造成斜面の一角で2009年より「里の草原づくり」にとりこんでいます。外来種だらけの造成地に在来草原を「再生」する理由、方法、そして、その成果を紹介しました。



## 淡路島 身近な自然・身近な野草 バックナンバー

### I. 海岸の植物を見に行こう (2014年3月)

海に囲まれた淡路島は海岸の植物を観察するのにうってつけのフィールドです。海岸の環境を「浜(はま)」「潟(がた)」「磯(いそ)や崖(がけ)」の3つに分け、それぞれの環境に特徴的な野草を紹介しました。また、浜の植物とくらしの関係も紹介しました。



文・写真： 澤田佳宏(兵庫県立淡路景観園芸学校 / 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)

レイアウト： 奥井かおり(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)

表紙・カット： 梅崎まみ(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)

写真協力： 岡花いづみ(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)

発行：兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所 まちづくり建築課  
TEL 0799-26-3213

本書掲載の記事・写真について無断転載・複製を禁じます。